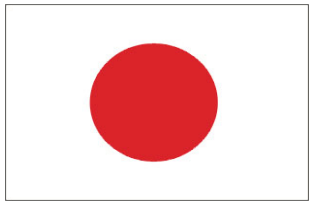
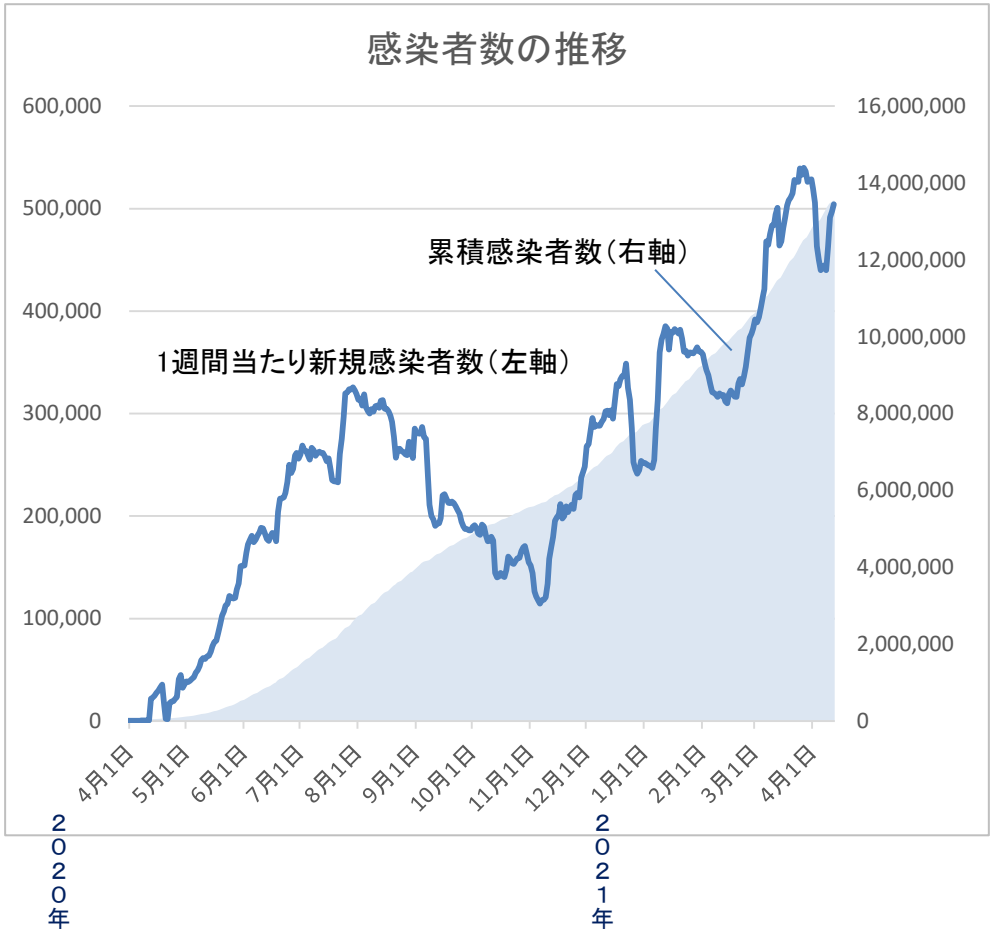


コロナ禍の下でのブラジル：影と光

2021年4月

駐ブラジル日本国大使　山田彰

新型コロナウイルス感染症の感染状況



（出典：伯保健省）

新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの状況

1　ワクチンの確保状況

企業名	承認・接種状況	供給予定数
アストラゼネカ/オックスフォード	1/17　緊急使用承認 1/23　接種開始 3/12　登録承認	2億2,240万回分
シノバック(コロナバック)	1/17　緊急使用承認 1/18　接種開始	1億3,000万回分
COVAXファシリティ	2/9　免除の決定 2/25　接種開始	4,250万回分 (内訳:アストラゼネカワクチン912万回分、他の銘柄は未定)
ファイザー	2/23　登録承認	1億回分
ヤンセン	3/31　緊急使用承認	3,800万回分
ガマレヤ研究所(スプートニクV)	3/26　緊急使用承認申請中	1,000万回分
バーラト・バイオテック(コバクシン)	—	2,000万回分
モデルナ(契約交渉中)	—	6,300万回分(うち5,000万回分は2022年1月予定)

(出典:伯保健省)

2　ワクチンの接種状況 (4月12日18:30現在)

○ワクチン接種数　※( )内はブラジル人口に対する接種率

1回目　2,086万回　(9.93%)
2回目　620万回　(2.95%)
合計　2,706万回

○接種済ワクチンの比率

アストラゼネカ/オックスフォード　16.7%
シノバック　83.3%

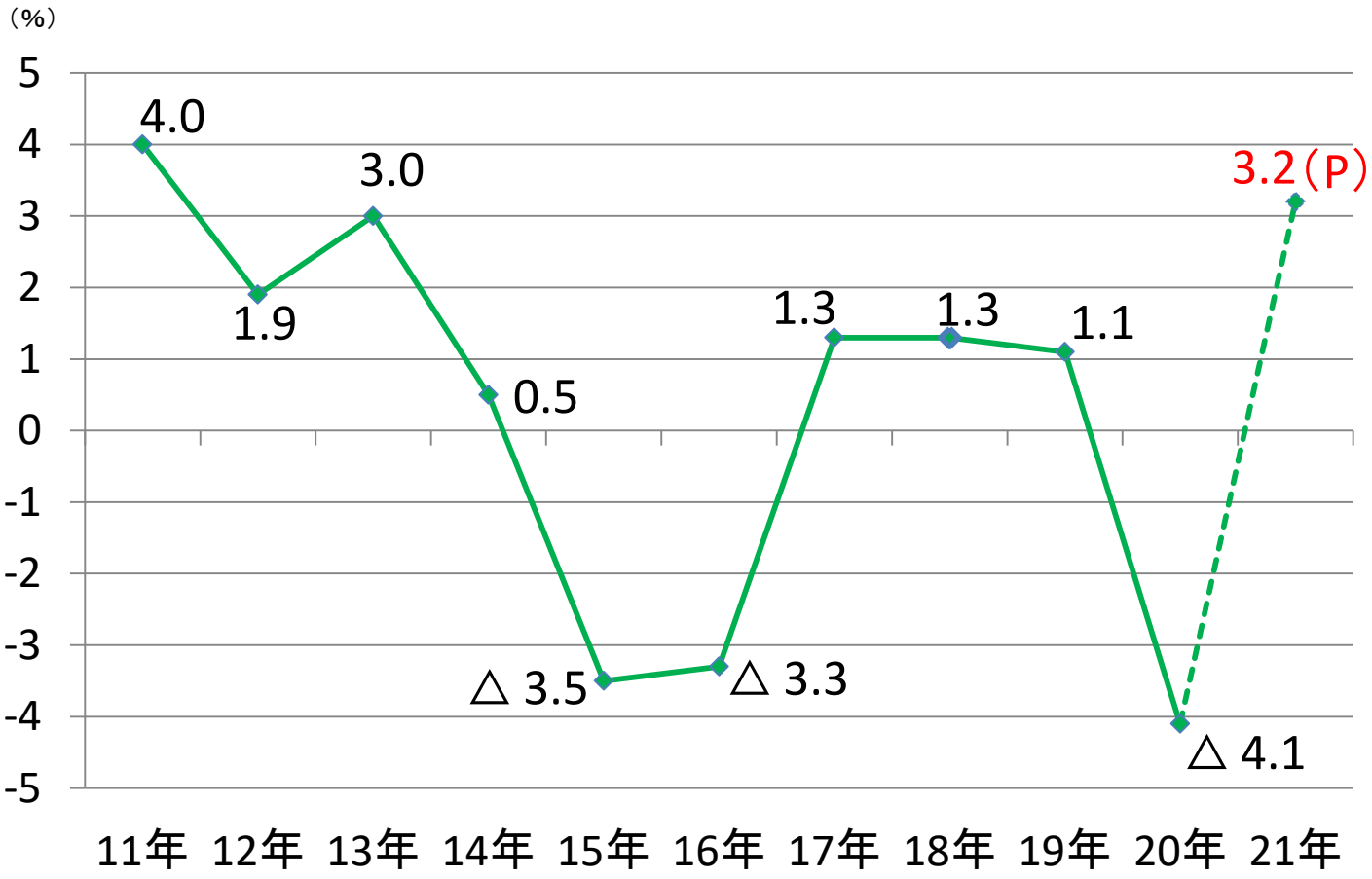
接種対象者		接種開始日	接種可能率 ※
医療従事者		1/18	97%
施設入居の60歳以上の者		1/18	100%
施設入居の障害者		1/18	100%
先住民族		1/18	100%
高齢者	80歳以上	1/23	100%
	75～79歳	3/9	100%
	70～74歳	3/16	100%
	65～69歳	3/25	31.26%
伝統的生活者(キロンボ等)		3/16	100
公安・救助義務者・軍人		4/1	6%

※4月1日までの配布数による接種可能な人数の率。
実際の接種済者の割合ではない。

(出典:伯保健省)

ブラジル経済の現状①

実質GDP成長率（前年同期比）



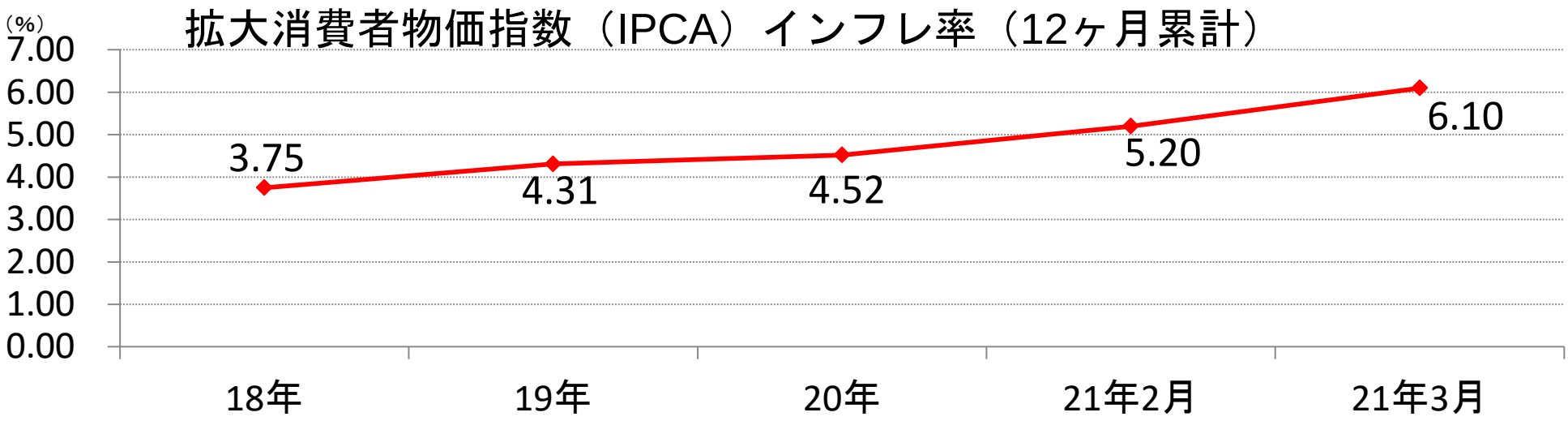
（参照：伯地理統計院）

国際機関及び伯政府の
ブラジルGDP予測

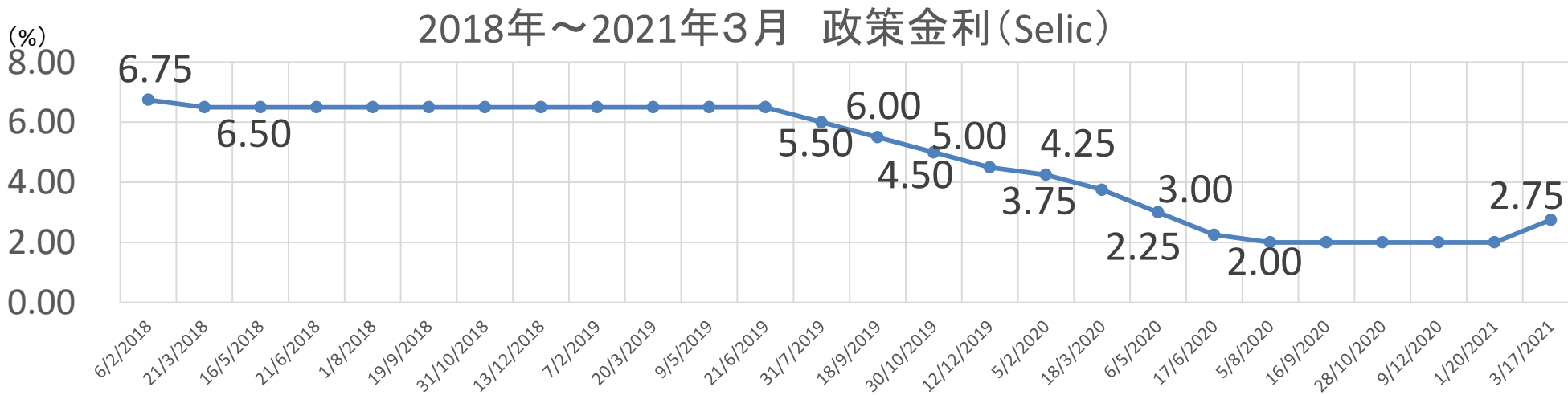
	2021年予想
世銀	+3.0% （2021年4月）
IMF	+3.7% （2021年4月）
伯経済省	+3.2% （2021年3月）
伯中銀	+3.6% （2021年3月）
OECD	+3.7% （2021年3月）

（参照：伯経済省等）

ブラジル経済の現状②



（参照：伯地理統計院）



（参照：伯中央銀行）

ブラジルの議会情勢

【ブラジルの議会情勢】

◆ボルソナーロ大統領は政権発足直後、歴代政権による利益調整型政治（他党に閣僚ポストを分配し連立政権維持）を批判し、人物本位で閣僚を任命。かねて議会調整に腐心していた中、パンデミック発生当初、大統領パンデミック対策法案等を巡り議会との対立が顕在化。

◆大統領に対する弾劾請求提出が続く中、ボルソナーロ大統領は、2020年4月頃より議会の中道派諸政党（セントラン）に接近。閣僚を含むポスト提供や議会における政府の調整役にセントラン所属議員を配置することにより、議会関係をマネージ。2021年2月の上下両院議長選では、セントラン勢力の支持を背景とし、ボルソナーロ大統領が推したパシェコ上院議員及びリラ下院議員がそれぞれ当選した。

◆パンデミック下において、議会はリモート投票を実施。

【新・上下両院議長の顔ぶれ】

ロドリゴ・パシェコ上院議長（DEM：民主党）
・保健医療と経済回復を議会の優先事項に
・即位の礼で訪日（ボルソナーロ大統領に同行）

アルトゥール・リラ下院議長（PP：進歩党）
・前下院セントラン（中道政党会派）院内総務
・3月末、政府に感染症対策の軌道修正を要求

伯議会制度（二院制）

上院 SENADO FEDERAL	比較対象	下院 CÂMARA DOS DEPUTADOS
81（うち、現在女性12名） ※各州3議席（固定）	議席数	513（うち、現在女性77名） ※各州の人口に応じ議席が配分。
8年 ※4年毎に各州1名又は2名を改選（2018年の選挙では各州2名が改選）。	任期	4年 ※4年毎に全員改選。
大選挙区多数代表制	選挙方法	各州の非拘束式比例代表制
2022年	次回選挙	2022年
ロドリゴ・パシェコ （DEM）	議長	アルトゥール・リラ （PP）

政党別議席数

（議席数は2021年2月時点）

※黒：中道右派・中道左派
※青：右派
※赤：左派

政党名（上位10党／全33党）	上院	下院	合計
1. PT（労働者党）	6	53	59
2. PSL（自由社会党）★	2	53	55
3. MDB（伯民主運動）	15	34	49
4. PP（進歩党）★	7	40	47
5. PSD（社会民主党）★	11	35	46
6. PL（自由党）（旧PR）★	3	41	44
7. PSDB（伯社会民主党）	7	33	40
8. Republicanos（共和党）★	2	32	34
9. DEM（民主党）	5	29	34
10. PSB（伯社会党）	1	30	31
その他（無所属含む）	22	133	155
計	81	513	594

★：下院で中道政党会派（セントラン）を形成する政党

閣僚の交代

●3月23日、ケイローガ新保健大臣が就任。
●3月29日、6ポストの閣僚交代がボルソナーロ大統領により発表。

＜交代前＞		＜交代後＞
パズエーロ保健大臣 2020.5-2021.3	保健大臣	マルセロ・ケイローガ保健大臣(55) ・ブラジル心臓病学会前会長
ブラガ・ネット文官長 2020.2-2021.3	大統領府・文官長	ラモス文官長(64) ・前政府調整庁長官として議会調整を担当 ・元伯南東部軍司令官（現在：予備役）
ラモス政府調整庁長官 2019.6-2021.3	大統領府・政府調整庁長官	フラヴィア・アフーダ政府調整庁長官(41) ・下院議員（PL：自由党） ・伯日議員連盟メンバー
アラウージョ外務大臣 2019.1-2021.3	外務大臣	カルロス・フランサ外務大臣(56) ・前大統領特別補佐官（外務省出身） ・元大統領府儀典長
アゼヴェード国防大臣 2019.1-2021.3	国防大臣	ブラガ・ネット国防大臣(64) ・元陸軍参謀長（現在：予備役） ・文官長在任時に「Pró-Brasil」計画を発表
メンドンサ法務・治安大臣 2020.4-2021.3	法務・治安大臣	アンデルソン・トーレス法務・治安大臣 ・前連邦区公安局長 ・連邦警察出身
レヴィ連邦総弁護庁長官 2020.4-2021.3	連邦総弁護庁長官	メンドンサ連邦総弁護庁長官(48) ・連邦総弁護庁出身

ルーラ元大統領の2022年大統領選挙への出馬可能性

ルーラ元大統領に対する有罪判決（以下の2件の訴訟において第二審有罪判決）

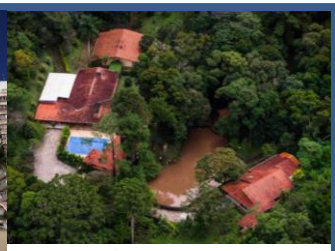
●グアルジャー（SP）の三層マンションに絡む汚職訴訟

- 2017年7月に第一審において当時のモーロ判事から有罪判決
- 2018年1月に第二審において有罪判決　→　フィッシャ・リンパ法（2018年の大統領選挙に出馬できず）
- 2019年4月に第三審（司法高等裁判所：STJ）において有罪判決　→　最終審（連邦最高裁判所：STF）に上訴

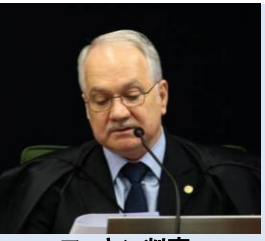
●アチバイア（SP）の別荘地に絡む汚職訴訟

- 2019年2月に第一審においてハード判事（モーロ判事の後任）から有罪判決
- 2019年11月に第二審において有罪判決

グアルジャー（SP）の三層マンション


アチバイア（SP）の別荘地

ファキン連邦最高裁判所（STF）判事の決定


ファキン判事

- 3月8日、ファキンSTF判事は、上記2件を含む4件の訴訟につき、クリチバ連邦裁判所第13刑事法廷（第一審）には管轄権がなかったとし、有罪判決の取消（無効）を決定。
- ファキン判事は、連邦検察の上訴を受け、3月12日に本件を大法廷に回付。

（ファキン判事の決定が大法廷で維持される場合）
連邦検察が改めて起訴し直し、ルーラ元大統領が第二審において有罪判決となれば出馬が不可能となるが、2022年までに第二審判決が出るのは難しいとみられている。

ルーラ元大統領の出馬可能性	管轄権の有無に関する大法廷審理（4/14）	
	大法廷がファキン判事の決定（3/8）を維持	大法廷がファキン判事の決定（3/8）を覆す
モーロ元判事の忌避が認められる（注:3月23日STF第二小法廷は、グアルジャーの件に関し、モーロ元判事の忌避を認定。）	○	△ （1）忌避決定がグアルジャーの件のみに適用 → 出馬不可能 （2）忌避決定のアチバイアの件への適用が認められる → 出馬可能
忌避が認められない	○	×

2022年ブラジル大統領選　想定される主要候補者

ボルソナーロ大統領(66)

・サンパウロ州出身、無所属
・2018年大統領選では国民の政治不信の受け皿に
・コロナ禍でも、各種構造改革、対外経済開放推進姿勢
・政府のワクチン政策批判等により、直近（2021.3）の各社世論調査では発足以来最低水準へ

ルーラ元大統領(75)

・ペルナンブーコ州出身、PT
・第35代大統領（2003年-2011年）
・大統領退任後、複数の汚職容疑により起訴。
・2018年大統領選は、国内法により出馬不可に
・2021年3月、最高裁判事が上記有罪判決の無効化を決定。
・現状、政治的権利を回復

シロ・ゴメス元財務相(65)

・SP州出身、PDT
・ﾌｫﾙﾀﾚｰｻﾞ市長、セアラ州知事を経てカルドーゾ政権で財務相、ルーラ政権で国家統合相歴任
・過去3度（1998年、2002年、2018年）大統領選に出馬

ドリアSP州知事(63)

・SP州出身、PSDB
・かねてボルソナーロ大統領とは対立
・党内では新興勢力でPSDB古株からは批判も

モーロ元法務・治安相(47)

・パラナ州出身、無所属
・元ラヴァ・ジャット捜査判事
・現政権発足時、法務・治安大臣に抜擢。国民の人気閣僚となる
・2020年4月、大統領の連邦警察に対する政治的介入疑惑を訴え、大臣職を辞任

ルシアーノ・フッキ氏(49)

・SP州、無所属
・伯で最も著名なTV司会者

ボウロスMTST代表(38)

・SP州、PSOL
・2018年大統領選出馬

マンデッタ元保健相（56）

・RS州、DEM
・2020年4月保健相解任

レイテRS州知事(36)

・RS州、PSDB
・反ドリアを掲げるPSDB内部より支持

ジョアン・アモエド氏(58)

・リオ州、Novo（創設者）
・2018年大統領選出馬